

インドネシア文化活動家ネットワーク（JKB）からの連帯メッセージ

IMF・世界銀行東京総会に対する抗議行動への連帯メッセージをという要請を受けてうれしく思います。

スハルトが率いる軍隊がインドネシア共産党のメンバーや多くの無辜の民衆を殺害して新秩序体制を確立して以降、インドネシアではIMFと世界銀行のプロジェクトが長らく実施されてきました。新秩序体制は経済的・政治的安定のために世界銀行とIMFが実施する多くのプロジェクトを受け入れてきました。ジャワ島北岸道路、発電所、輸送、農業施設、感概、ダム、繊維工場などほとんどすべての部門におよぶ産業基盤が世界銀行の手でつくりだされてきました。この世界銀行のプロジェクトの多くはインドネシアの支配エリートたちに大きな利益をもたらしてきました。同時に、世界銀行によるこうした開発計画はインドネシア政府の債務を増大させてきました。

1997年、新秩序体制は外債の支払いができなくなり、資本主義の危機をつくりだしました。この危機によってスハルト体制は倒されることになり、IMFは構造調整プログラム（SAP）を開始しました。IMFの構造調整プログラムのドクトリンはインドネシアの民衆にとって苦い薬になりました。なぜなら、労働者・民衆は社会的安定を得られなかったからです。IMFとその構造調整プログラムによって、公共交通への補助金は削減され、民衆の生活必需品の価格は高騰しました。さらに、労働の分野では、アウトソーシングや契約労働者化が進められました。それらは資本家が超過利潤を得るために用いられてきました。インドネシアの多くの産業分野でアウトソーシングが進められていますが、インドネシアの労働者の賃金は非常に低く抑えられています。

私たちは労働者の賃金が低いままであることを望みません。IMF・世界銀行東京総会に対する抗議行動がアウトソーシングを使った労働条件を打破していくものになることを願っています。アウトソーシングという制度がなくなれば、世界の労働者の労働条件はより良いものになるでしょう。

連帯を込めて